

H27-B-1 深度59.82~59.85m 走向・傾斜 (No.43) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

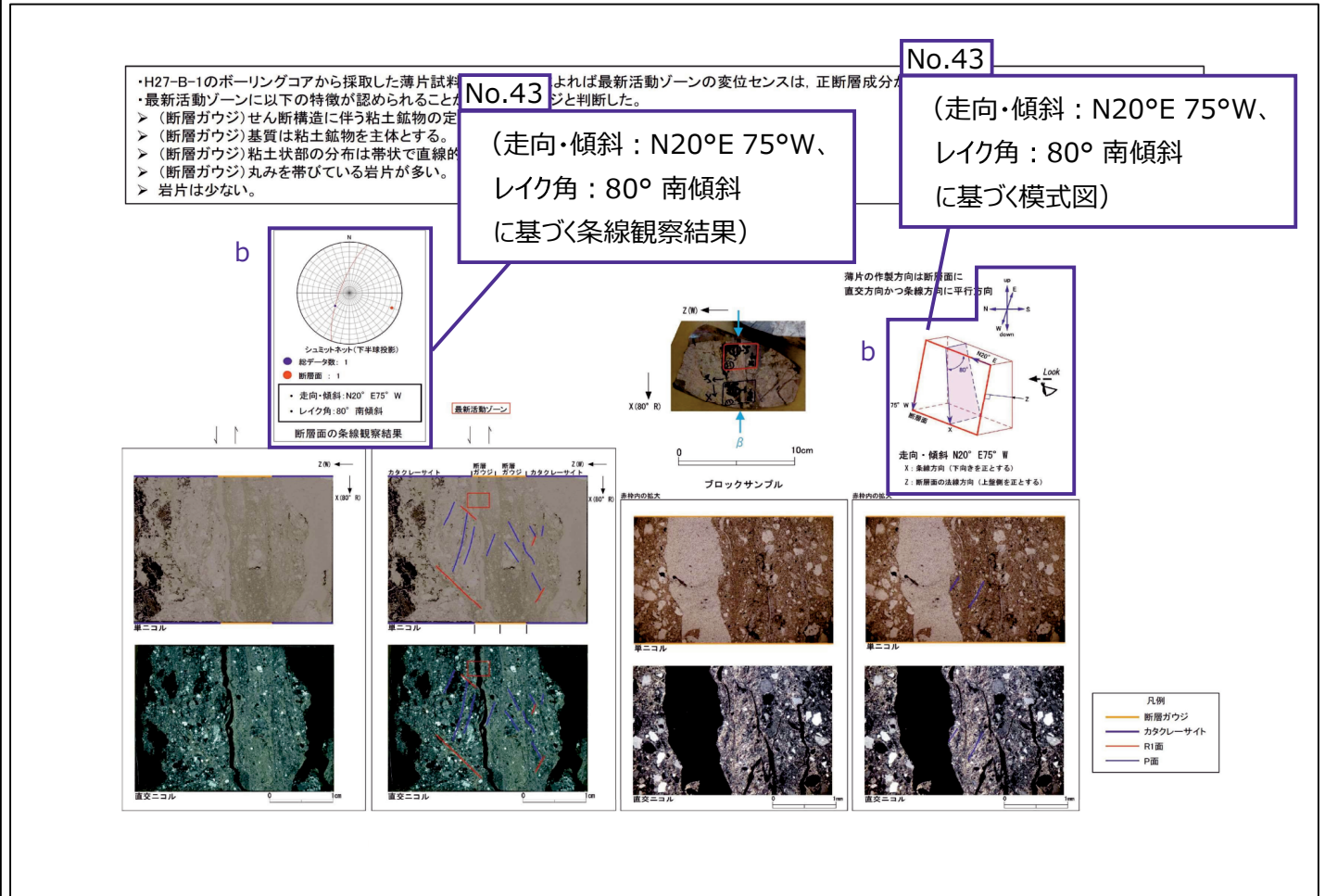
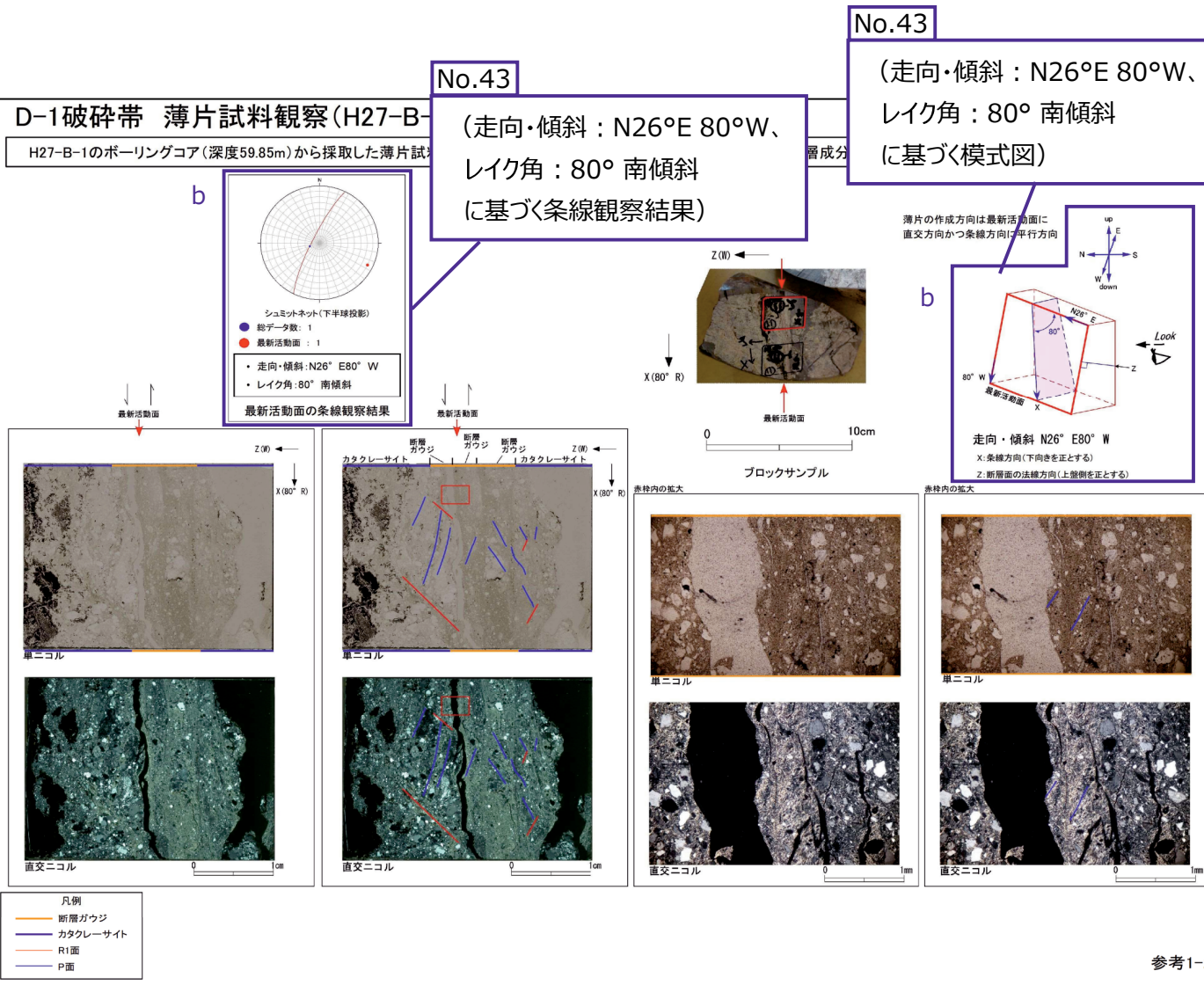
机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料 1 薄片観察結果

参考1-27頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

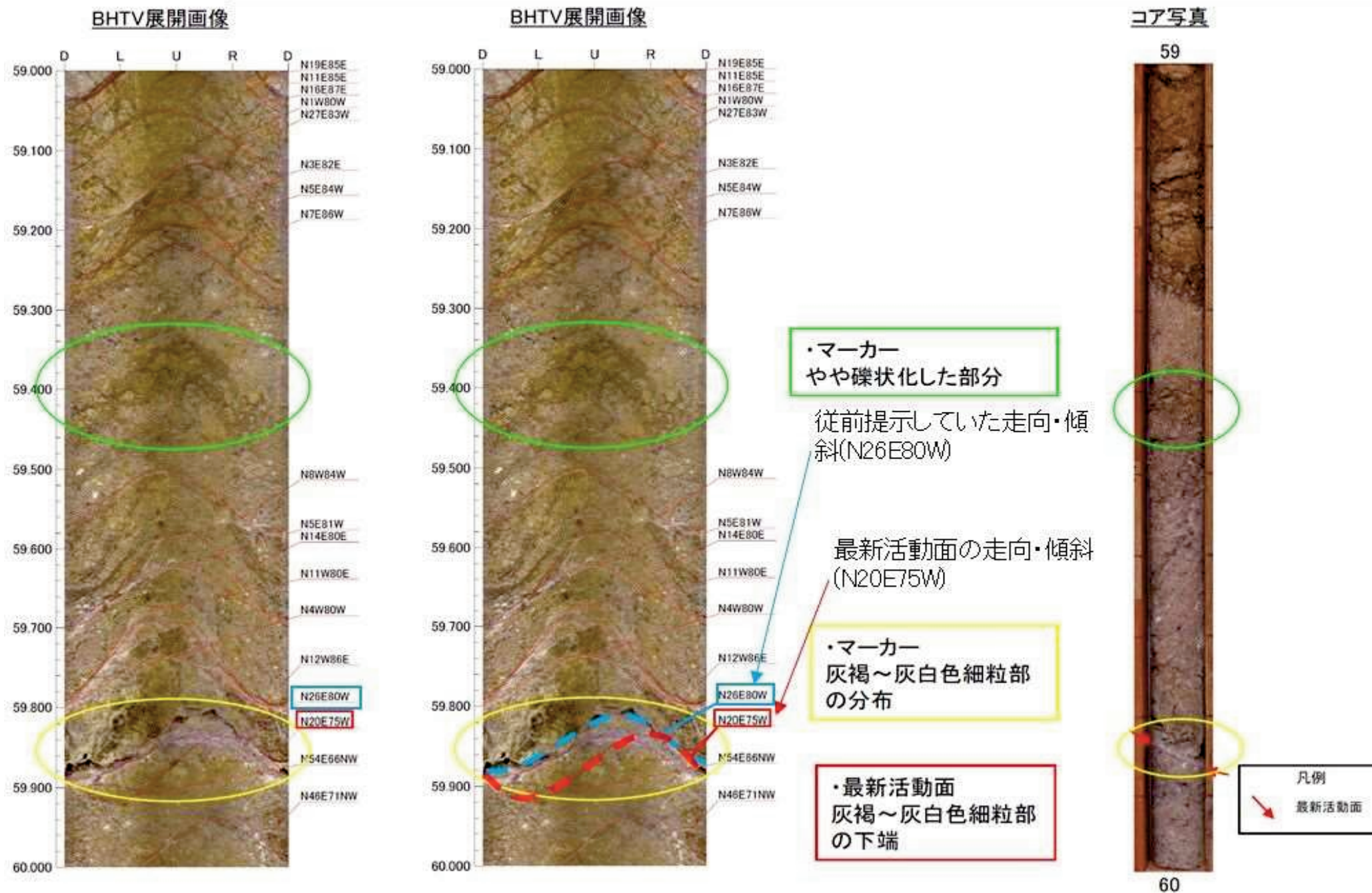


H27-B-1 深度59.82~59.85m 走向・傾斜 (No.43) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表にN26E80Wと記載していたが、BHTV展開画像からの走向・傾斜を読み誤っていたことから以下のとおり走向・傾斜をN26E80W (灰褐～灰白色細粒部の上端) からN20E75W (灰褐～灰白色細粒部の下端) に変更した。

ボアホールカメラ展開画像との対比結果 (H27-B-1 深度59.82~59.85m)

・H27-B-1孔 深度59.82~59.85mの破碎部の最新活動面の走向・傾斜はN20° E75° Wである。



H27-B-1 深度69.70~69.73m 全景写真の記載 (No.44) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料 1

敦賀発電所 2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

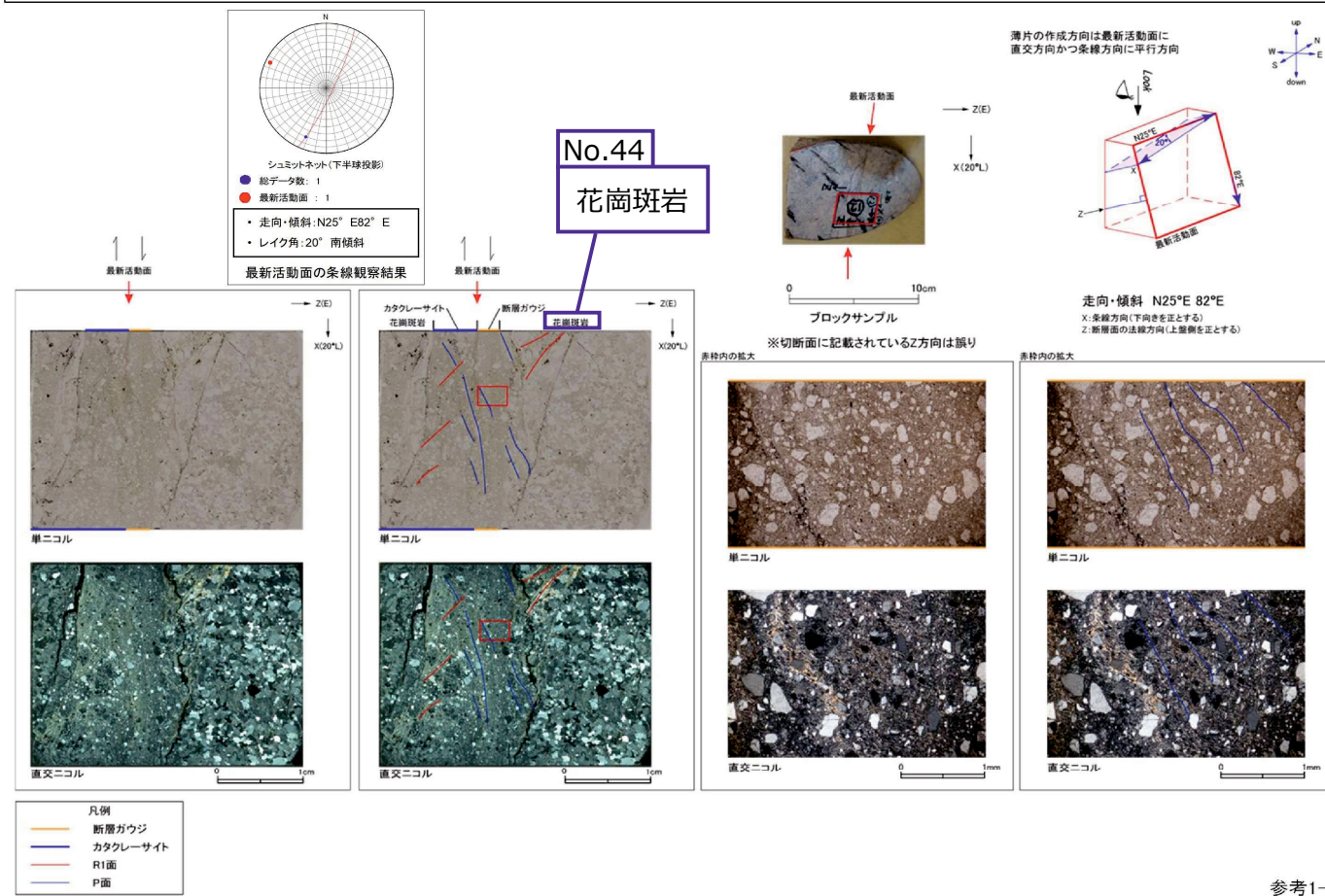
参考資料 1 薄片観察結果

参考1-237頁

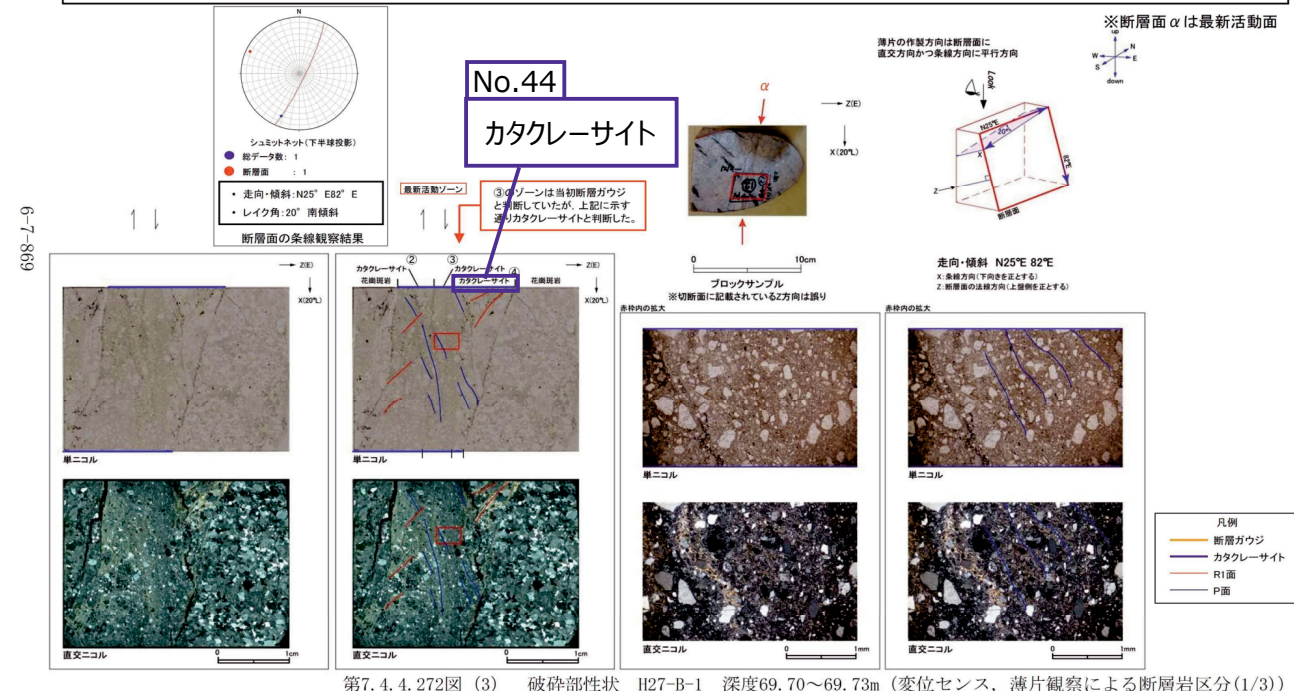
第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

非モデル化破碎部 薄片試料観察 (H27-B-1 深度69.70m)

H27-B-1のボーリングコア(深度69.70m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、右ずれ成分が卓越する。



・H27-B-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、右ずれ成分が卓越する。
 ・断層岩区分については、③ゾーンはカタクレーサイトと評価した②ゾーンより細粒であり、破碎流動も比較的少ない。また、全体的に粘土鉱物が認められることから、断層ガウジと判断していた。なお、②ゾーンにはジグソー状の角礫群などのカタクレーサイトと示す特徴が認められる。
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破碎部であると判断した。
 > (カタクレーサイト) 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
 > (カタクレーサイト) 組織は漸移的に変化する。
 > (カタクレーサイト) 角ばった岩片が多い。
 > (カタクレーサイト) ジグソー状の角礫群が認められる。
 > (カタクレーサイト) 塑性変形した雲母粘土鉱物が認められる。



第7.4.4.272図 (3) 破碎部性状 H27-B-1 深度69.70~69.73m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・走向・傾斜をN44E72Eに見直し (No.48)

【理由】再観察の結果、従来の走向・傾斜は最新活動面に比べ低角度であることが判明したため、見かけの傾斜角の差 (23°) から姿勢を復元

・条線方向を88Rに見直し (No.49)

【理由】走向・傾斜の見直し (No.48) により、基準方位が変わることに伴う変更

・変位センスを正断層センスに見直し (No.50)

【理由】走向・傾斜 (No.48) 及び条線方向 (No.49) の見直しにより、最新活動面が東傾斜になることに伴う変更

【断層連続性評価への影響】あり

・破碎帯名をf-d1-1-11に変更 (No.51で説明)

【理由】走向・傾斜 (No.48)、条線方向 (No.49)、変位センス (No.50) の見直しに伴い、破碎部の連続性を再評価した結果、f-d1-1-11破碎帯に連続すると評価

2. 変更箇所

a 走向・傾斜の記載を「N44E72E」に変更 (No.48)

b 条線方向の記載を「88R」に変更 (No.49)

c 変位センスの記載を「正」に変更 (No.50)

d 見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づく図に変更 (No.48、49)

H27-B-1 深度75.57~76.00m 最新活動面の走向・傾斜 (No.48) を変更、それに伴い条線方向 (No.49)、変位センス (No.50) を変更、
 破碎帯名 (No.51) を見直し

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-189頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

15 非モデル化破碎帯

性状一覧表(17/19)

(No.51で説明)

断面図上の番号	種別	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕帯幅 (cm)	断面ガウジ	断面ガウジ		変位センス	写真			
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					長さ	幅					
50	H27-B-1 (傾斜45°)	49.17	49.22	N47E	45W	3.0	1.5	無	-	30L	正	右	49	
53	H27-B-1 (傾斜45°)	52.72	52.81	N15E	83E	7.2	-	-	-	10R	-	支	52	
54	H27-B-1 (傾斜45°)	53.17	53.22	N27E	64W	4.8	0.2	無	-	90	正	-	53	
70	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N25E	83E	2.4	0.1	無	-	90	正	-	70	
75	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N34E	87NW	18.2	-	-	-	90	逆	-	74	
76	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N34E	87NW	18.2	-	-	-	90	逆	-	75	
79	H27-B-1 (傾斜45°)	76.72	76.87	N17E	71E	13.1	0.2	無	-	30L	正	右	78	
114	H27-B-1 (傾斜45°)	113.51	113.60	N21E	89E	8.3	0.2	無	-	30L	正	右	113	

凡例
 最新活動面 ← → : 破砕帯
 断面ガウジ
 粘土の存在物が認められる箇所
 *1: 薄層
 *2: 試掘坑

【破砕帯】
 粘土状破砕部、砂状破砕部、角礫状破砕部
 面結した粘土状破砕部、面結した砂状破砕部、面結した角礫状破砕部の合計の幅とし、破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。
 【平滑さ】
 平 : 最新活動面が直線的なもの
 非平滑 : 最新活動面が湾曲するもの

参考2-189

No.48

N44E72E

No.49

88R

(No.51で説明)

断面図上の番号	種別	破砕帯範囲		走向	傾斜	破砕帯幅 (cm)	断面ガウジ	断面ガウジ		変位センス	写真				
		上端深度 (m)	下端深度 (m)					長さ	幅						
76	H27-B-1 (傾斜45°)	75.57	76.00	N44E	72E	18.2	-	-	-	30L	正	右	75		
79	H27-B-1 (傾斜45°)	76.72	76.87	N17E	71E	13.1	0.2	無	-	30L	正	右	78		
86	H27-B-1 (傾斜45°)	83.38	83.41	N28E	88E	2.3	0.2	有	90	正	-	85			
114	H27-B-1 (傾斜45°)	113.51	113.60	N21E	89E	8.3	0.2	無	-	30L	正	右	113		
118	H27-B-1 (傾斜45°)	118.84	119.12	N28E	79E	15.1	1.5	有	30L	正	右	D-41	117		
120	H27-B-1 (傾斜45°)	118.84	119.12	N28E	79E	15.1	1.5	有	30L	正	右	D-41	119		
139	H27-B-1 (傾斜45°)	139.82	139.88	N27E	89E	4.4	-	-	-	30L	正	右	D-42	138	

正
No.50

※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し、肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(面成分「-」は薄片観察を行っていない箇所)
 -(上記以外): データを取得していない箇所

凡例
 最新活動面 ← → : 破砕帯
 断面ガウジ
 カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す
 断層角礫

第7.4.4.413図 (3) 破砕部性状一覧 (H27-B-1)
 6-7-1591